



レアアース関連
でセミナー開催

マテリアル・
トレイディング

マテリアル・トレイディング・カンパニーは、このほど、レアアースに関するセミナー「希土類会議シリーズ」を都内で開いた。

中国の新輸出枠政策の影響、日本の主用途の現状などに関する講演が行われた。開会に際して小滝

秀明社長は「日本は着実な技術開発で、世界のレアアース市場を主導してきている。市況が安定しないなか、この困難を乗り越えて新たな市場を創造することで、産業の繁栄を築いていければと思っている」とコメントした。

冒頭、来賓者として経産省・製造産業局非鉄金属課の川淵英雄氏がレアアースを取り巻く政策の流れなどについて説明。

主産国の中国が打ち出した輸出枠規制により輸出価格が高騰し、中国内価格と開きが生じていることについて「輸入枠をなくすことで値差はなくなるとみて中国当局と交渉を進めており、(交渉成立まで)あと1〜2年耐えてもらわないと考えている」とコメントした。また、脱中国依存の供

給体制を進める取り組みの一例として、加ペレ・マウンテン・リソーシス社のアル・シェフスキー社長が来日し、加エコリッジ鉱山で採れるレアアースの商業生産プロジェクトについて説明。プロジェクトの成果として、同社は2016年頃をめぐりに年間4000〜5000トを日本に供給していくことを計画している。今後カナダなどの資源ソースが多様化することで「市況も供給も安定するだろう」と期待を込める。

ほかに、三徳技術部長の中村英次氏やJOGMEC金属資源開発本部の馬場洋三氏がレアアースの技術動向などについて解説。東北大学の中村崇教授はレアアースのリサイクルや代替技術開発の進捗について説明した。